

目次

- 1面 県P研究大会十日町津南大会
- 2面 教育問題委員会研修会(県民フォーラム)
- 3面 PTAの在り方研修会
- 4面 各地のPTA活動
- 5面 関プロ大会発表内容・災害見舞金報告
- 6面 日P 及び 県三行詩コンクール
- 7面 広報委員会 活動報告・お知らせ
表彰・県教育委員会からのお知らせ

新潟県 P T A

No.108

発行 新潟県小中学校PTA連合会
 編集 広報委員会
 〒950-0965
 新潟市中央区新光町7番地2
 新潟県商工会館5階
 Mail ngknpta@coral.ocn.ne.jp
 ホームページもぜひご覧ください!
 新潟県PTA連合会 検索

9月28日(土)、十日町市越後妻有文化ホール段十ろうを会場に、第59回新潟県小中学校PTA研究大会十日町津南大会が開催されました。当日は県内各地から多くの皆様にご臨席ご来場いただきました。誠にありがとうございました。アトラクションでは、津南町立芦ヶ崎小学校の龍神太鼓、十日町ジュニアウィンドアンサンブルと十日町市立中里中学校・松代中学校吹奏楽部の合同編成による演奏、十日町小学校きものサークルわかむらさきと鏡島小学校保坂明里さんの歌と踊りが披露され、子どもたちが会場を盛り上げてくれました。

実践発表では、津南町の「育ネットつなご」から、地域、学校、保育園、保護者という各部署を設けて、それぞれの組織が連携して子育て・教育を行えるようにする支援活動等について発表していただきました。

また、「十小・十中・ふれあいの丘 ほほえみの会」からは、3校の子どもたちの交流を通して、障がいのある子もいない子も、共に学び、共に育つ「共生教育」を理念とした活動を発表していただきました。



羽鳥実行委員長

第59回新潟県小中学校PTA研究大会十日町津南大会
 つまみり
「共生」妻有の大地に生きる
 ふるさとが創り出す子どもたちの未来
 大会実行委員長 羽鳥 高史
 十日町市津南町小中学校PTA連合会



開会式

そして、記念講演では、パラ・クリエイティブプロデューサー/ディレクターである、NPO法人スローレーベル理事長 栗栖良依様から「スローレーベルが創造する未来」についてご講演いただきました。

「スロー」な感性を取り戻し、自分たちのあり方を問い続け、変化をおそれずに、多様性と調和のとれた社会のあり方を考えるお話を通じて、これからの子どもたちの未来を語っていただきました。

今大会の主題の「共生 妻有の大地に生きる」ふるさとが創り出す子どもたちの未来」のように、人と人との共生、人と自然との共生、そして地域との共生が、子どもたちの明るい未来につながると思われました。このたびの実践発表や栗栖様のご講演が、皆様のこれからの子育てやPTA活動に少しでもお役に立てば幸いです。



記念講演 栗栖良依様

記念講演
「スローレーベルが創造する未来」
 パラ・クリエイティブプロデューサー/ディレクター
 NPO法人スローレーベル理事長 栗栖 良依様



県P表彰

これまでの生い立ちや、骨肉腫をきっかけに右下肢機能全廃となったこと、障

がいが負って今までの夢や希望を失いどん底にいたときに、障がい者とアーティストをつなぐ仕事をしたこと、新たな夢や希望を見つけたこと、NPO法人スローレーベルを立ち上げて様々な活動をしていく中で、子どものころからの夢「オリンピック開会式の演出」をかなえるまでに至った活動についてお話しいただきました。

活動の映像も交えてのご講演は、とても興味深い内容でした。子どもたちの明るい未来や、多様性と調和のあるふるさとを創るために、まずは私自身が、社会の変化に敏感かつ柔軟に反応して変わらなければいけないと強く感じました。

「いじめ見逃しゼロ県民」の集いの開催、SNSを使った「県民サポーター」の募集、校種を問わずにキャラバン隊が訪問する「いじめ見逃しゼロキャラバン」の活動、保護者や地域住民を対象とした「いじめ対策」に関する県民講座の開催等、様々な活動が行われているとのことでした。



次期開催地(聖籠町)PR



実践発表 (津南町 育ネットつなご)

いじめ問題に関心を持ち、いじめ根絶に向けた取組をしているところか、何をしてよいかかわからないというのが実際のところではあります。

学校や保護者、地域の方に向けたいじめの未然防止や解消のための様々な活動を行っている「いじめ見逃しゼロ県民運動」の取組について、新潟県教育庁生徒指導課 副参事関口様より説明がありました。

「いじめ見逃しゼロ県民の集い」の開催、SNSを使った「県民サポーター」の募集、校種を問わずにキャラバン隊が訪問する「いじめ見逃しゼロキャラバン」の活動、保護者や地域住民を対象とした「いじめ対策」に関する県民講座の開催等、様々な活動が行われているとのことでした。

学校や保護者、地域の方に向けたいじめの未然防止や解消のための様々な活動を行っている「いじめ見逃しゼロ県民運動」の取組について、新潟県教育庁生徒指導課 副参事関口様より説明がありました。



県からのお話

県からのお話
 新潟県教育庁生徒指導課 副参事 関口 和之様



実践発表 (十小・十中・ふれあいの丘ほほえみの会)

桑原 裕行

その答えが「いじめ見逃しゼロ県民運動」の取組の中にあるように感じました。学校やイベント会場などを回っているキャラバンの話や、個人サポーターの方の体験談や考え、アドバイスなどを積極的に取り入れていくことで、いじめに気付ける、いじめをなくすことを考えられる子どもを育てられるような気がしますし、親として子どもが一番のサポーターになれるのではないかと感じました。

「いじめ問題に関心を持ち、いじめ根絶に向けた取組をしているところか、何をしてよいかかわからないというのが実際のところではあります。」

「いじめ問題に関心を持ち、いじめ根絶に向けた取組をしているところか、何をしてよいかかわからないというのが実際のところではあります。」



アトラクション(きものサークルわかむらさき 十日町小)



アトラクション (合同演奏 十日町ジュニアウィンドアンサンブル・中里中・松代中)



アトラクション(龍神太鼓 芦ヶ崎小)

講演概要 「思春期のころと関わる」

新潟青陵大学大学院 教授 伊藤 真理子

(臨床心理士、スクールカウンセラー
教育相談・子育てのスーパーバイザー)



日頃より、皆様から教育問題委員会の活動にご支援いただき感謝申し上げます。当委員会では昨年11月10日、県立生涯学習推進センターにて、県教育委員会や県内の社会教育団体との連携により、「にいがた生涯学習県民フォーラム」家庭教育講演会を開催しました。講師として、新潟青陵

大学大学院 臨床心理学研究科 教授 伊藤真理子様から、多感な思春期の子どもたちの接し方について、臨床心理士としての体験や事例を多く交えながら、ご講演いただきました。皆さんも思春期を経験されてきたと思います。誰もがその人の個性によって反応は様々です。自分自身がご

今回の講演は、「思春期の心と関わる」と題し、皆様の悩みに対しての回答となるような具体的な事例をあげながら、子どもの心情を細かく分類してのお話を聞くことができました。改めて言われてみると納得できる

ことや気づかなかったことなどが多くありました。現在の思春期の傾向として

自分自身の中で整理できない子もいれば、相談に乗ってほしい子もいるでしょうし、そういった子どものサインを見逃さないようになりたいものです。

悩み相談に乗るためには、理詰めにならず、子どもが理解できる言葉遣いもが理解できる言葉遣いも

講師 新潟青陵大学大学院教授 伊藤 真理子様

「思春期のころと関わる」

にいがた生涯学習県民フォーラム2019
(県P連 教育問題委員会研修会)

家庭教育講演会

のようであったか思い起こして子どもに接しても、その反応に悩む方も多いのではないのでしょうか。



て、インターネット・SNSを介してのコミュニケーションの希薄さ、イメージや内界を表現する言葉の貧困さ、自分の定まらなさ、身内と他人の極端な分化などがあるとのことでした。講演を聞いている中で、親である私たちと今の時代の子どもたちでは、環境の違いもあり、思春期の傾向も違つように思えました。

し、積極的に距離を縮めるのではなく適度な距離をとる。いつでも話を聞いてやる必要があることなので、心がけていきたいと思えます。教育問題の解消には、家庭や学校だけでなく地域の力も重要であることから、一般の方からも参加いただける研修会としています。今回の研修会を開催するにあたり、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後も当委員会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(教育問題委員長 布施 真)

参加者とのQ & A

- Q 子どもの本音を聞き出すテクニックは？
A この人だったら本音を話しても大丈夫と思える関係づくりをする。ネガティブな話は時間がかかる。好きなことや普段の遊び等から。
- Q 衣服の片付けなど言わないと心配。親として上手に言うには？
A 家の一部を許せる範囲で、その子の好きにさせる部分があってもいい。一般的な片付け方は、もう少し小さいときに身に付けさせたい。

1 思春期とは？

- 前思春期：9～10歳くらい(小学校3～4年)
- 思春期：11歳～17歳頃(小学校高学年～高校生の頃)
大人とは異なる同世代集団の形成(ギャングエイジ)
友達との付き合いが増える → 親に秘密を持つ
(昔)交換日記、文通 (今)SNS、LINE、ツイッター、インスタグラム
- ◎秘密を持てる=自分の心を守れる、自分の考えを作る
自己主張が少しずつ始まる → 人格ができてくる

2 思春期のこどものころ

- 第二次性徴の訪れ → 今までの自分の身体が変化 → 動揺
- 同世代との同質性と異質性
大人と違う、私たち仲間だけの価値観を作る
自分らしさを作る(仲間内でも私はちょっと違う)
- 第二次反抗期
- さなぎの時期
殻が固い(外のものを入れない)
動いていないように見える(内側からの言葉が少ない)
幼虫 → 固い殻を作る → ある時期に中の組織を壊してドロドロにする → 成虫の形に新しく再形成する ものすごく大きな変化の時期
殻を固くして(反抗して)ぐちゃぐちゃな中身(自分)を守る
- ◎安心して心で引きこもる(自分の心の世界を守る)ことができないと、形の上で引きこもらざるを得なくなる。



3 思春期・青年期における心理的問題

- 事例1 自分のなさ・ぶつかれなさ
自分の考えは人と違う → ケンカになるから言えない
親と考えが違う → 親が傷つくから言えない
- ◎親でも子どもとは違う人間。すべての理解はできない。
「あなたは違うんだね。」と言って話し合っていく。
- 事例2 葛藤・悩みの表出できなさ
自分が葛藤している、いじめられていることを相談できない
(昔)けんかの後で仲直り、友情が深まることも
(今)またつながれる安心感がないので、けんかしたくない
- 事例3 心理的葛藤「悩むこと」のできなさ
「まあまあ」「そこそこ」「普通」しか言わない
問題症状の理由が自分も周りも分からない
自分を語る言葉がない → 身体症状に出る

4 こどもの現在

- いいとこ取りのコミュニケーション
ぶつかったら、ケンカをしたら関係が終わる
だから「空気を読む」「コミュ障・KYの回避」
本音は、知らない人へのインターネットやSNSに書き込む
- イメージや自分の気持ちを表現する言葉の貧困
メールでコミュニケーション → 短い言葉
(例)了解 → 「り」
「きもっ」の裏側にあるそのところが出てこない
- 身内と他人の極端な分化
「身内」に分かってほしい → 表面的な「仮」の団結
「他人」への想像力は働かない
(例)成人式で暴れる、バイトの不適切動画、いじめ

5 思春期のこどもの話を聴く

- 秘密、非社会的・反社会的なものへの憧れ等も聴いてみる
- 応えすぎず、ぶつかりがいのある安定した大人として聴く
「お母さんって分かってないよね。」と言える親子関係
ぶつかったら見捨てられず、近くにいてくれる安心感
- 論理的すぎず、少し遊びをもって聴く
- 社会のルール等の現実感覚も大切に、締めるところは締める

今回の研修は「What's PTA? 私たちの可能性」というテーマで、県立生涯学習推進センターを会場に「PTAの在り方研修会」を行いました。

私たちが子どもの頃にはすでにこの学校にもあったPTA。それぞれ学校、協議会にとって長い歴史を歩んできたこと、思いが、少子化に伴う学校規模の縮小、保護者の就労状況など様々な環境の変化により、PTAへの関わり方や負担感が変わってきているようにも思います。

時代は変わっても、PTAは学校・地域・家庭と連携して子どもたちのために環境を整えていく役割を担っています。そのような中、保護者や先生方の負担を軽減しつつPTA活動を進めていけるよう、研修の場を設け、これからの活動を続けていけたらと考えております。



新潟県P連としても、継続して情報交換や研修の場を設け、これからも皆様の活動のサポートをしていきたいと考えております。今後とも、ご理解とご協力をいただきたくお願いいたします。

やってて良かった
楽しいPTAを目指して
広げようPTAの輪!!

PTAの在り方研修会

県P連会長 板倉 久徳

これからPTA

楽しいPTAにするには

- 不安、不満を解消
「やらないといけない=義務感」
「やらされている=強制感」
「やらない人がある=不公平感」の解消
- なぜ今の活動をしているのか解らない、知らない
- 役員くじ引き、欠席裁判といわれないような役員・参加者決め
⇒ PTAの成り立ち・歴史を知り、子どもへの責任、大人の学びと役割として必要な活動の精査

研修や研究大会などへの参加で、他地域のPTA活動を知る機会を！
強制的な動員でなく、各種行事や研修など参加を広く呼びかける

やって良かった

- 楽しいこともたくさん。仲間が増えた。
- 「お父さんが学校に来るようになった」と子どもたちがすごく喜んでいました。
- 保護者が学校に来ると、子どもは安心するみたいです。
- PTAのこと、学校のことを妻、子どもたちに聞くので家族の会話が増えた。
- 校長先生をはじめとするたくさんの先生とのつながりと信頼を築くことができました。
- 仕事を休むときは休んで、別のことをしたほうが自分の人生にとってもプラスになり、家族との時間も大切にできるようになった。
- 仕事と地域活動を両立させる、生きがいみたいなものがみつかった。

これからのPTA

- できる人が、できるときに、できる分だけ(範囲)で大人もチャレンジし学びながら、子どもと共に成長
- 社会に開かれた教育課程⇒社会と共有・連携しながら、実現する地域学校協働活動に、PTAへの期待が大きくなっている
- 学校後援的なPTAだけでなく、学校運営そのものに実質的に関わっていく支援から協働 ⇒ 学校とのコミュニケーションUPが必要
- 社会総掛かりでの教育を実現していくため、子どもたちの安心安全な環境整備にも地域の協力が不可欠
- 学校の中での活動にとどまらず、より大きな「地域」という舞台で活躍することが求められている
- PTA活動がそうした人材育成機能をも有している

楽しく持続可能な活動ができる組織として

What's PTA? ~私たちの可能性~

グループ討議より

【課題 A】
PTAの役員が決まらない。

【課題解決に向けた取組例】

- 会長職に偏っている仕事を副会長等に分散させる。
(単位PTA、郡市P連、県P連それぞれ)
- やってよかった、こんないいことがあったなどの声を伝える。
(実感あり。子どもの成長を感じ取れた。他地区の役員から刺激をもらった等)
- 委員会役員などはポイント制に。
- 他薦で、この方にやってもらいたいという気持ちを丁寧に伝えていく。
- 規約の変更
(任期の確定・免除規定など)
- 懇親会で親しく、楽しく。



【課題 B】
PTAが何をするのか分からない。
PTAの活動が多すぎる。

【課題解決に向けた取組例】

- 1年の年表を作り、いいところをアピールする。
- 活動日を見直す。
土・日曜ばかりにしない。
参観日に合わせる。
回数を減らす。
- 予算に合わせて活動を見直す。
参加人数の減、有名人でない講師

【課題 C】
PTA主催のスポーツ大会への要請が強く、困っている。

【課題解決に向けた取組例】

- 大会と参加の仕方を見直す。
大会・練習の回数を減らす。
種目や組み合わせ等を見直す。
ルールを見直す。
合同チームでも参加OK
男女混合チームでもOK
- 勝負にこだわりすぎず、親睦を重視して参加する。

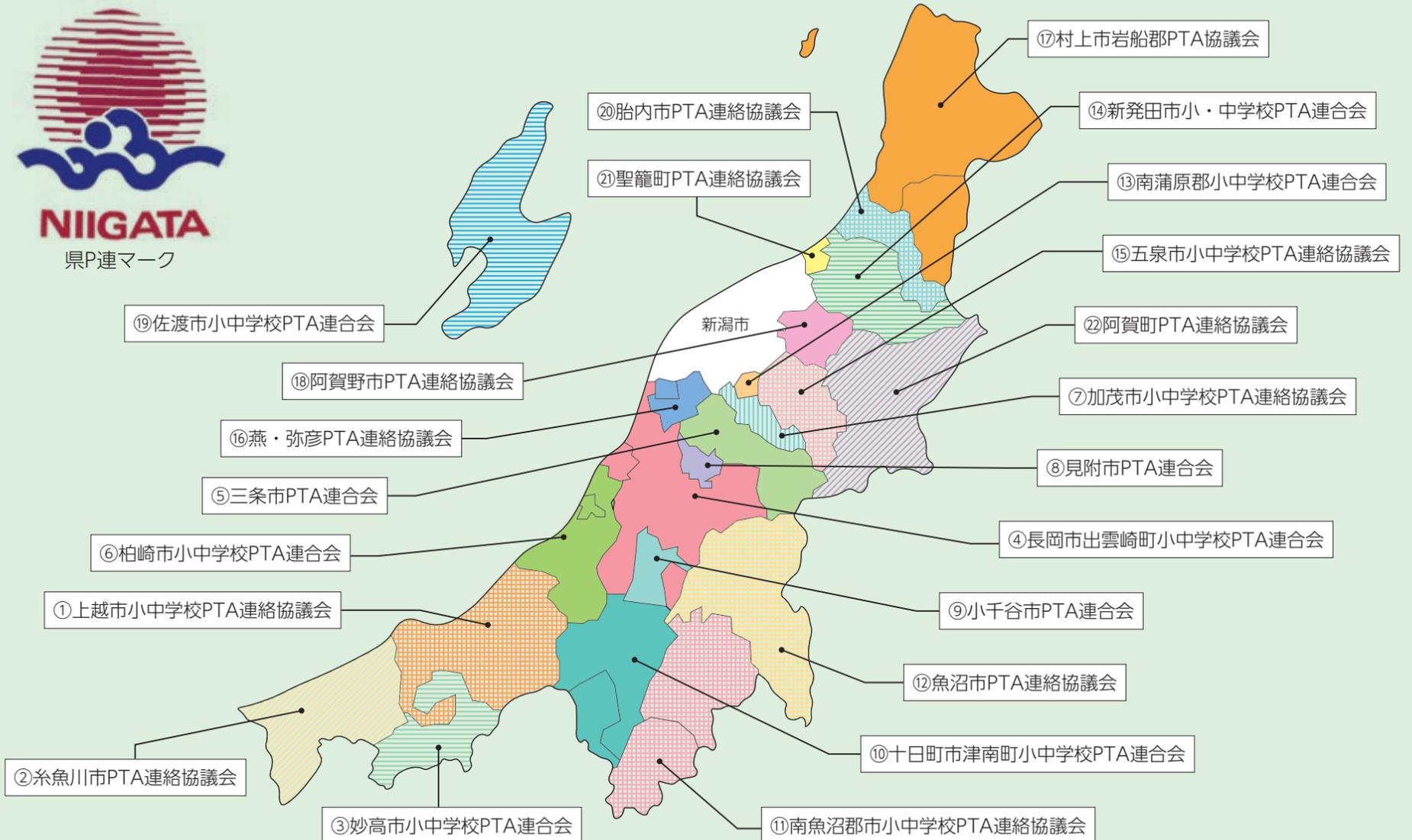
【課題 D】
教職員の働き方改革への対応
〔文科省のガイドライン
教員の残業の上限 月45時間 年360時間〕

【課題解決に向けた取組例】

- 教員でなくてもできる仕事を他に委託する。
- 地域コミュニティとの連携強化
アクティブシニアを活用する。
PTAをPCA化していく。
- 日Pを通じて職員増を国に要望する。
- PTAでなく、「親の会」にする。



各地のPTA活動



各地の主なPTA活動一覧

No.	郡市PTA	名称等	実施日・期間	会場等	活動の紹介
1	上越市	上越市小中学校PTA連絡協議会研究大会	11月23日(土・祝)	上越文化会館	講演会「阿部裕二氏と「いじめ問題」について考える」 講師：阿部 裕二 様(リポーター・俳優)
2	糸魚川市	糸魚川市PTA連絡協議会研修会	11月23日(土・祝)	能生マリンホール	講演会「『楽しいコミュニケーション』を考えよう！家庭での対話編 ～子どものネットトラブルを防ぐための3つの方策」 講師：LINE株式会社 柴田 保文 様 後援：糸魚川市教育委員会 LINEセーフティセンターの事業を利用
3	妙高市	第14回妙高市小中学校PTA連合会研究大会	7月6日(土)	妙高市新井ふれあい会館 ふれあいホール	講演会「妙高ユーモアネット宣言～活かせ！笑いの肯定力！発想力！～」 講師：江口 歩 様(新潟お笑い集団NAMARA代表) 原野 聖子 様(上越つばき法律事務所)
4	長岡市 出雲崎町	第22回親善インドア決勝大会	11月4日(月・振休)	長岡市民体育館	日本一参加人数の多いインドア大会(約1,000人) 8月31日：予選抽選会 10月20日：予選会(16会場) 11月4日：決勝大会
5	三条市	第37回ふるさと絵画コンクール	11月23日(土・祝) 11月24日(日)		市内の小中学生が応募 応募数：小学生 370点 中学生 431点 豊かな自然や歴史、風景や建物、伝統行事や産業等、ふるさと三条の魅力を表現
6	柏崎市	家庭、学校、地域との連携・協働研修大会	8月24日(土)	柏崎市文化会館 アルフォーレ	○講演会「ネットトラブル・ネット依存から子どもを守る」 講師：安川 雅史 様(全国ICTカウンセラー協会代表理事) ○パネルディスカッション(柏崎市教育委員会・刈羽村教育委員会と共催)
7	加茂市	小中連携情報交換会・懇親会	7月6日(土)	有本	各校のPTA活動の紹介、情報交換会、懇親会
8	見附市	見附市PTA連合会研修会	10月5日(土)	グランドール四季亭	①講演会「一人一人の力を伸ばす特別支援教育」 講師：稲田 真砂美 様(見附特別支援学校 教頭) ②グループワーク「通学路に潜む「危険」を共有しよう！」
9	小千谷市	第52回研究大会	11月17日(日)	小千谷市 総合産業会館	講演会「子どもの夢を叶える保護者の役割・指導者の役割」 講師：古賀 稔彦 様(柔道家、アトランタオリンピック金メダリスト)
10	十日町市 津南町	第59回新潟県小中学校PTA研究大会十日町津南大会	9月28日(土)	十日町市 越後妻有文化ホール 段十ろう	大会主題「共生」妻有の大地に生きる～ふるさとが創り出す 子どもたちの未来～ 記念講演「スローレーベルが創造する未来」 講師：栗栖 良依 様(NPO法人スローレーベル理事長)
11	南魚沼郡市	①南魚沼市研究集会 ②湯沢町研究集会	7月27日(土) 12月6日(金)	南魚沼市民会館 湯沢学園(第一体育館)	①講演会(南魚沼市) 講師：小島 良子 様(新潟市日和山小学校地域教育コーディネーター) ②講演会(湯沢町) 講師：笛田 博昭 様(湯沢町出身 声楽家・テノール)
12	魚沼市	魚沼市PTA連絡協議会研修大会	6月8日(土)	小出郷文化センター	①講演会「急速な時代に流されない、お笑いの発想法「肯定から始まる笑い 前向きに生きるヒント」」 講師：江口 歩 様(ナマラエンターテイメント) ②お笑いステージ ジャングポット 様
13	南蒲原郡	我が家の約束三行詩コンクール 田上町表彰式	2月7日(金)	田上町役場	全国・県で行っている「我が家の約束三行詩コンクール」 田上町でも毎年独自に選考会を行っています。 今年も大勢の子どもたちが全国・県で入選しました。
14	新発田市	令和元年度しばた人権フェスティバル「人権講演会」 ※市P連共催	12月8日(日)	新発田市生涯学習センター	演題：「『寝た子』はネットで起こされる!?」～ネット社会と部落差別の現実～ 講師：川口 泰司(かわぐち やすし) 様
15	五泉市	市P連ソフトバレーボール大会	11月24日(日)	五泉市総合会館	市P連会長杯争奪 市内PTA対抗「ソフトバレーボール大会」 午前：予選リーグ 午後：決勝リーグ 2リーグ制 トップリーグ(バレーボール経験者が多い) フレンドリーリーグ(参加して楽しむ)
16	燕・弥彦	PTA親善ソフトバレーボール大会	11月10日(日)	燕市体育センター	○講演会「これからの時代を力強く生きる子どもを育てる家庭教育の在り方」 講師：横澤 富士子 様(スクールカウンセラー) ○グループ協議「困り感のある家庭が孤立せず、学校や地域と連携して家庭教育を行うためにPTAができる事は何か」
17	村上市 岩船郡	村上市岩船郡PTA協議会研究大会	11月10日(日)	荒川総合体育館	講演会「弁当の日と子育て」 講師：竹下 和男 様
18	阿賀野市	市P連教育講演会	8月4日(日)	笹神ふれあい会館	講演会「周回の環境や人間関係を乗り越えていく力をどう育てるか」 講師：横澤 富士子 様 胎内市指定文化財「鉄江芸能保存会」演舞(地元小学生の剣舞)
19	佐渡市	キッズお仕事体験2019	11月17日(日)	サンテラ佐渡 スーパーアリーナ	佐渡の仕事体験：農業、建設業、運輸、情報・通信、医療・福祉等 12の企業ブースで子ども約500人が参加
20	胎内市	胎内市P連研究大会	11月30日(土)	新潟県少年自然の家	講演会「周回の環境や人間関係を乗り越えていく力をどう育てるか」 講師：横澤 富士子 様 胎内市指定文化財「鉄江芸能保存会」演舞(地元小学生の剣舞)
21	聖籠町	聖籠町PTA連絡協議会 講演会	8月31日(土)	聖籠町町民会館	講演会「子どもと親の防犯意識を高める」 講師：星野 小津枝 様 北見 直子 様(ALSOKあんしん教室担当者)
22	阿賀町	各単位PTAの活動の充実			令和2年度阿賀町PTA連絡協議会の講演会開催の準備



第51回 日本PTA 千葉市大会

PTA活動で伝える伝統文化～外ヶ輪みこしの活動を通して～

第6分科会（伝統文化）発表 新発田市立外ヶ輪小学校PTA

1 はじめに

本校が創立100周年を迎えた平成4年頃、近隣の小学校は、夏の新発田まつりやイベントで笛や太鼓の演奏を披露していましたが、本校にはそのようなものはありませんでした。そこで、当時のPTAが「お城を学区にもつ外ヶ輪小学校。お城の灯籠みこしを作って、祭りパレードに参加しよう!」と、祭りパレードに参加してから25年。お城、祭り、祭りで歌われる木遣りなど、地域の伝統と文化に触れながら、時代とともに変化しつつ受け継がれている活動と取組を紹介します。



2 新発田のお城とお祭りについて



新発田城は、別名「あやめ城」とも呼ばれ、初代新発田藩主溝口秀勝(みぞぐちひでかつ)侯が慶長3年(1598年)に築城し、3代直直(のぶなお)侯の時に完成しました。

新発田城は一般に多くある山城と違って、政治・経済の中心として交通の便利さを考え、平地につくった平城です。石垣がすき間なくかみ合うようにきちんと積まれる「切込はぎ」と呼ばれる美観を重視した技法でつくられ、北国の城特有の海鼠(なまこ)壁は全国的にも珍しいものです。新発田城はかつて本丸、二の丸、三の丸からなり、堀や石垣に囲まれ、11棟の櫓(やぐら)と5棟の門が並び、壮観な景観を呈していました。中でも、天守閣の代わりを果たしていたのが三階櫓です。3匹の鯨(しやち)を配する独特の櫓で、全国にも例がないものです。

新発田まつりの華である新発田台輪(だいわ)は、1726年頃にさかのぼり、時の6代藩主直治侯が祭りの賑わいを出すため、飾り人形の屋台を出すようにとのおふれを出したのが始まりと言われています。新発田台輪の特徴は三輪であり、前輪を持ち上げては下ろす「あおり」という動作を繰り返し運行します。現在は6台が現存しており、新発田市の有形民俗文化財に指定されています。毎年、8月27日早朝に各町内から出発して諏訪神社に奉納され、29日の夕刻に諏訪神社を後にして各町内に向かう途中、各町内の木遣りを歌い、前を行く台輪を追い越そうとする度に、台輪同士での「あおり」や「もみあい」が始まります。帰り台輪は通称「けんか台輪」と呼ばれ、文字通りのけんか祭りの様相を呈します。



3 活動の趣旨と課題

新発田市には、城下町ならではの歴史的有形・無形の伝統文化が沢山残っています。20数年前に外ヶ輪みこしを始めたPTAの先輩方も、学区にお城

があり、台輪を持つ町内もあるために、お城の歴史と台輪の歴史を伝える中で新発田の伝統文化を伝えていけると考えたのだと思います。しかし、短い期間でPTAの役員が変わっていくことや、児童の減少、みこしの老朽化など様々な課題もあり、長年にわたって続けてきた行事をどのように続けていくか毎年検討しています。

4 活動の内容



毎年6月にPTAの会議でその年の外ヶ輪みこしの計画を立て、実行委員会を立ち上げます。7月に参加児童を募集(5・6年生のほとんどの児童が参加)し、その中から木遣りリーダーを20名近く選出。夏休みに入って8月になると、みこしの修繕や木遣りの練習を行います。木遣りの練習は、地域で長年新発田台輪に携わっている方や、PTA役員で木遣りを歌える人が指導します。みこしは、大型で重さもあり危険なため、担ぐ練習もします。

今年は、みこしの修繕1日、木遣り練習3日の計4日間、1時間ほど行いました。祭りパレードは毎年8月28日の夜に行われ、今年は児童約120名、保護者約50名、教職員約30名の総勢約200名で参加しました。



5 成果と今後の課題



長年受け継がれてきた外ヶ輪みこし。当たり前のようにあるお城。物心ついた頃には目にしていた新発田台輪。総合学習で祭りや木遣りを学んだり、町探検でお城に出かけたりと、外ヶ輪小の子どもたちは、自然に新発田の伝統文化にふれていると感じています。またPTAとしても、保護者と教職員と

地域の方々との輪を広げて活動できていることは、とても意味のあることと感じています。

児童の減少による担ぎ手の負担、運営スタッフの負担など、これから続けていく上で、いくつかの課題がありますが、参加している児童とスタッフが楽しくこれからも続けていける活動を目指していきたいと思っています。



※関東ブロック千葉市大会が、台風19号により、初めて開催中止となりましたので、大会参加報告に代えて、実践発表予定だった内容を紹介します。



新潟・山形地震による災害 台風19号による災害 義援金についてのお礼と報告

令和元年6月18日に発生した新潟・山形地震では、村上市内の児童生徒の自宅や給食施設等に大きな被害がありました。

また、令和元年10月13日の台風19号により、長岡市、上越市、小千谷市、津南町、阿賀町の児童生徒の自宅の浸水や学校施設等への被害がありました。

被災された多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。

この度、県P連から県内の単位PTAを通じて災害義援金募金への協力をお願いいたしましたところ、皆様から多大なご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

つきましては、県P連理事会で、過去の災害時の見舞金や今後の災害への備え等について検討し、皆様からのご厚志を右記のように有効に活用させていただくこととなりましたので、ご報告いたします。本当にありがとうございました。

♥県P連に届いた義援金(令和2年1月31日現在)

総額 4,259,744円

♥義援金の使途について

○自宅の半壊・床上浸水・床下浸水の児童生徒(42名)への見舞金

1,230,000円

○給食費補助

474,000円

合計 1,704,000円

残金2,555,744円につきましては、今後の災害時に素早く対応ができるよう、「災害見舞基金」に繰り入れさせていただきます。

なお、台風19号で被災した関東ブロックの各協議会への見舞金についても検討しましたが、被害が多県に渡って甚大であり、児童生徒の被災状況の把握も難しいとのことから見送ることとなりました。

令和元年度 日本PTA「楽しい子育て全国キャンペーン」

3年連続上位入賞！ 今年もダブル入賞！

三行詩コンクール 入賞おめでとう！！



小学生の部
 「早寝早起き朝ごはん」
 全国協議会会長賞
 田上町立羽生田小学校 5年 長吉 風凛さん



中学生の部
 「早寝早起き朝ごはん」
 全国協議会会長賞
 魚沼市立小出中学校 3年 貝瀬 葵さん

毎年日本PTAでは、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化する中、改めて家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずなや家庭のルール、「早寝早起き朝ごはん」といった子どもたちの基本的な生活習慣づくりなど、家庭教育の大切さや命の大切さについて、家族やみんなで話したり取り組んだりする機会にしてほしいと、「三行詩コンクール」を行っています。新潟県からは小学生の部で平成29年度から3年連続で上位4作品に選ばれ、また今年度は小学校の部と中学校の部のダブル入賞の快挙です。作品は「ファミリーカレンダー」となりました。

応募総数 148,192作品
 小学生の部 84,681作品
 中学生の部 49,648作品
 一般の部 13,863作品

※詳細は、日本PTAのホームページをご覧ください。(入賞作品一覧、日P新聞第359号にて作品を紹介)

2019年度 新潟県三行詩コンクール 入選者

「たのしい子育て全国キャンペーン」

～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

(応募数：小学校138点 中学校328点 一般29点)

小学校の部 最優秀賞
 「ママ、今日学校でね。」とおねえちゃんときょうそうのお話タイム。
 「じゅんばんん!!じゅんばんん!!」とママは言うけど、
 やっぱりーばんに話したいな。
 かわむら なお

中学校の部 最優秀賞
 父は色々知ってるもの知りで母は厳しくどこかぬけてるまとめ役。姉は天然でみんなを笑わすムードメーカーだ。じゃあ俺は、よく食べ よく笑う 超元気な子になる。
 たなか ひかる

一般の部 最優秀賞
 「黒歴史」なんて言うなよ父の日の手紙に描いた
 ピンクのハート
 おおの つよし

部	学校名	学年	氏名
小学生	田上町立羽生田小学校	2	川村 七音
	田上町立羽生田小学校	5	長吉 風凛
	田上町立羽生田小学校	4	星野 花
	田上町立羽生田小学校	2	小日向さき
	田上町立羽生田小学校	5	坂上 太洋

部	学校名	学年	氏名
中学生	魚沼市立小出中学校	3	田中ひかる
	魚沼市立小出中学校	3	貝瀬 葵
	田上町立田上中学校	1	長吉 凛祈
	田上町立田上中学校	2	山田 垂依

部	学校名	氏名
一般	長岡市立三島中学校	大野 剛
	魚沼市立伊米ヶ崎小学校	本間 陽子
	魚沼市立伊米ヶ崎小学校	山本 瞳
	南魚沼市立後山小学校	石田 正栄
	南魚沼市立後山小学校	井口 豊

※以上の作品は、日本PTAへ推薦いたしました。多数ご応募いただき、ありがとうございました。

※敬称略

広報委員会 活動報告

広報委員長 古川原 渉

今年度は、日本PTA全国研究大会新潟大会が終わったので、通常の活動内容を掲載する紙面に戻りましたが、使う写真の枚数やカラー面を増やし、伝わりやすいようにしました。

第一〇七号では、PTA広報紙コンクール入賞校の作品、表彰式の様子も掲載。カラーで大きく紹介しました。日P兵庫大会の全体会記念講演や分科会基調講演、県P連の組織検討委員会研修会も伝わりやすい記事になったと思います。また、安全普及啓発活動助成の申請事例を掲載したので、活用いただければ、皆様のPTA活動がより良いものになると思います。

第一〇八号では、県P十日町津南大会での記念講演、県からのお話、子どもたちのアトラクションも伝わりやすいよう校正を行いました。県民フォーラムや県P連研修会の内容も、参加されなかった皆様にもぜひご覧いただきたいと思っております。

今回、各地のPTA活動は、新潟県の地図を載せ、地域独自の活動がわかりやすいようになりました。三行詩コンクールでは、県そして日本PTAでの入賞も掲載しました。最後に、原稿依頼にご快諾をいただいた皆様、広報委員の皆様へ感謝申し上げます。活動報告とさせていただきます。

第18回新潟県PTA 広報紙コンクールのご案内

県P連では、PTA広報活動の活性化を目的に広報紙コンクールを開催いたします。

●応募方法・応募締切

2019年4月から2020年3月までに発行された単位PTA広報紙の全ての号をセットにして2部、県P連事務局に送付してください。

応募締切 2020年4月8日(水)必着

●審査方法・基準

1次審査・2次審査で、最優秀賞・優秀賞・奨励賞・佳作の各賞を決定します。

日本PTA広報紙コンクールの審査基準を参考に、PTA広報紙のもつ目的・使命・記事・編集・レイアウト・見出し文などを総合的に審査します。※詳しくは、2月上旬に各都市P連事務局を通じて各単位PTAに配信された実施要項をご覧ください。

祝 令和元年度 年次表彰



とき…令和元年11月15日(金)
ところ…東京都千代田区 ホテルニューオータニ

PTA活動で、毎年優れた業績を有する団体や個人が、新潟県教育委員会や新潟県小中学校PTA連合会から推薦され、表彰されています。今年度は、次の皆様が表彰されました。おめでとうございます。

文部科学大臣表彰

団体

糸魚川市立磯部小学校PTA
十日町市立田沢小学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

団体

佐渡市立畑野小学校PTA
小千谷市立東山小学校PTA

個人

岩 淵 里江子(長岡市立東北中学校PTA)
榎 本 恵美子(前胎内市立中条中学校PTA)
岡 田 龍 一(前上越市立中郷中学校PTA)
瀧 川 寛 人(長岡市立表町小学校PTA)
(敬称略)



祝 令和元年度

「障がい者の生涯学習支援活動」に係る 文部科学大臣表彰

十小・十中・ふれあいの丘 ほほえみの会(十日町市)

文部科学省では、障がいのある方々が一生涯にわたり、自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の支援に功績のあった個人や団体を表彰しています。

ほほえみの会は、障がいのある方々の身近なところで、教育、スポーツ、文化等の多様な学習を支える活動を、活発に継続的に行ってきた実績が認められました。おめでとうございます。

表彰式・事例発表会は、令和元年12月3日(火)に文部科学省にて開催され、ほほえみの会会長の柳 典孝さんが出席されました。

ほほえみの会の活動は、今年度の県P研究大会十日町津南大会の実践発表で紹介され、文部科学省ホームページの「支援活動事例集」にも掲載されています。子どもも大人も、障がいのある人もない人も、生涯にわたって地域で学びながら

一緒に過ごしていく時代です。今後のPTAや地域での活動に役立つ事例がいっぱいです。ぜひご覧ください。



編集後記

今年度も様々なPTA活動が行われました。ご協力、ご参加、ご尽力された皆様、本当にありがとうございました。子どもたちを取り巻く問題や課題は多岐にわたり、また複雑化しているように思われます。子を思う親の心配は、いつの時代も尽きないことと実感しています。喜ばしい記事で紙面がいっぱいになるような、そんなPTA活動で、子どもも親も地域も元氣になればと期待しています。

(広報委員 古藤嘉一)

PTAによる家庭教育支援活動の紹介

～令和元年度PTA家庭教育啓発支援事業～

県では、家庭教育支援活動に取り組むPTAを支援しており、今年度は2団体が下記のような取組を行いました。

1 見附市立田井小学校PTA

「親子田井っ子のメディアコントロール」

家庭の中で子どものメディア時間をコントロールする力を養うため、メディア調査、親子対象講演会、家庭での標語・ポスター作りや審査等の取組を行いました。また、標語・ポスター作品を掲載したクリアファイルを地域に配布することで、「地域・保護者・学校の三者で子どもを育てる」という意識を高めました。



2 燕市立燕南小学校PTA

「眠育を中心とした子どもの望ましい生活習慣の確立を目指して」

規則正しい生活リズムを定着させるため、心身共に健康で望ましい睡眠の取り方を児童、保護者で学ぶ機会を設けました。睡眠・朝食など生活習慣に関するアンケート調査・分析、保護者への眠育指導、眠育講演会、学校保健委員会での討議等の活動により、家庭での取組が充実し、家庭教育力の向上につながりました。



新潟県教育庁生涯学習推進課青少年家庭教育係 TEL 025-280-5617

学校・家庭・地域が連携して 「いじめ見逃しゼロ」を！

いじめ問題に関心をもち、いじめ防止に向けた取組を支援・協力いただける人を増やし、児童生徒が安心して生活できる環境を作ることを目的として、県民サポーターを募集しています。

いじめに関する様々な情報を発信しています。ぜひLINEにて登録ください！(登録無料)

こんな情報を配信しています

- ①いじめ見逃しゼロ コラム
例えば「いじめ見逃しゼロ県民運動」を支援する個人サポーターの一人である今井美穂さん(タレント)のコラム「自信の身につけ方」
- ②イベント案内
例えば「アルビレックス新潟」のホームゲームでのPR活動(会場ビッグスワン)の案内



〇問い合わせ先 新潟県教育庁生徒指導課 支援・相談班
TEL 025-280-5793 FAX 025-285-8087

新潟県小中学校PTA 連合会・新潟市小中学校PTA 連合会 推薦

令和2年度 小・中学生総合補償制度ご加入のおすすめ

新規加入受付中!!

3月19日(木) (第一次締切) までに加入 → 4月1日(水)から補償
4月23日(木) (第二次締切) までに加入 → 5月1日(金)から補償

(団体総合生活保険)

特長 1 お子様が加害者に!?

示談代行付き
個人賠償責任補償で安心!

自転車走行中に歩行者と衝突…



個人賠償責任補償は同居の家族も対象です。

特長 2 お子様がケガ

24時間補償で安心!
熱中症、細菌性食中毒も補償!

スポーツで転んでケガをしてしまった…



特長 3 幅広い補償

幅広い補償
インフルエンザも対象
病気で入院した場合の**医療補償**
(P5・M5プラン)

お子様が突然の病気で入院…



**「もしも」が起こった時に大切なお子様を
24時間いつでもどこでもお守りする
「備え」のご案内です**

特長 4

1万人以上の加入で団体割引等の適用により
約51%割安 1年間で掛金3,000円~
加入できます

保険金お支払い実績

ケガをした! ケガをさせた! 入院した!
お子様の行動が活発になるほど
不慮の事故も懸念されます。

〈平成30年度お支払い実績〉

加入者 13,427名 事故受付件数 1,060件

(事故内容)	傷害事故	933件
	賠償事故	71件
	医療・育英・携行品	56件
	死亡	0件

簡単! ご加入手続きは記入・投函するだけ!

1月以降に学校から配布される**黄色の封筒**をご確認ください。
加入依頼書を記入し返信用封筒にてご返送ください。



各種補償制度の概要

傷害補償は他の制度の給付に関係なく保険金をお支払いします。
(一部特約を除く)

	日本スポーツ振興センター災害共済給付制度	小中学生総合補償制度	PTA活動補償制度
補償される活動範囲	授業中 登下校中	24時間	PTA活動中
保険の対象	児童・生徒	児童・生徒 個人賠償責任補償は同居の家族も	児童・生徒 保護者、先生、 趣旨に賛同する会員
加入の方法	学校一括加入	個人(任意加入)	単位PTA一括加入
休み時間中、グラウンドで転んで骨折した。	○	○	×
登下校中に車にはねられ骨折した。	○	○	×
体育の授業中、手首を骨折した。	○	○	×
PTA主催のお祭りでケガをした。	×	○	○
PTA主催のラジオ体操でケガをした。	×	○	○
放課後、サッカーをしていてケガをした。	×	○	×
休日に自転車運転中、転倒して左足を骨折した。	×	○	×
自転車で他人にぶつかり、ケガをさせた。	×	○	×
自転車で塾に向かう途中で駐車中の車にぶつかり車を傷つけた。	×	○	×
放課後に野球をしていて近所の窓ガラスを割った。	×	○	×
O-157に感染し入院した。	×	○	×
地震でケガをした。	×	○ (P5・M5・Hプランのみ)	×
疾病により入院した。	×	○ (P5・M5プランのみ)	×
携行品の損害	×	○ (P5・M5プランのみ)	×

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

制度に関する
お問い合わせ先

一般社団法人 新潟県PTA安全互助会事務局
〒950-0965
新潟市中央区新光町7-2 新潟県商工会館 5F
TEL **025-280-0456**
(受付時間/月曜~金曜 9:00 ~ 17:00)

【幹事代理店】 有限会社 新潟コーリン
〒950-0965
新潟市中央区新光町7-2 新潟県商工会館 5F
TEL **025-280-0361**
(受付時間/月曜~金曜 9:00 ~ 17:00)

【幹事保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社
【非幹事保険会社】 共栄火災海上保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
AIG損害保険株式会社